



MINOGAOKA

みのが丘

校 是

誇り・希望・理想

華があり 挨拶があり
美しい言葉で語れる生徒

平成 25 年度
第 10 号

10 月 29 日発行
文責：羽賀正晃

充実！…「うしおの光」学習発表会

10月19日(土)、「うしおの光」学習発表会を開催し、多くの保護者の皆様にお越しいただきました。1年生のキーワードは「地域に学ぶ」であり、地域の方々を講師に招き、塩竈らしい学習に取り組みました。2年生は「地域とかかわる」をキーワードにし、職場体験を通して学んだ「働く」ことを考えました。1・2年生とも、保護者や先輩を目の前にして緊張しながらの発表でした。3年生は「地域にはたす」がキーワードでした。福祉施設での高齢者とのふれあいを通して学んだことを、クラス毎に個性のある工夫を凝らした発表が見られました。ご来賓の方々から「素晴らしかった」との言葉を多くいただき、充実した発表会となりました。

また、食品バザーのため早朝から多くの保護者の皆様にご協力いただき感謝申し上げます。



お世話になった方々と施設

- 「琴」：小藪社中
・小藪弘子様
- 「ちぎり絵」：市川紙店
・市川弘子様
- 「海」：第二管区海上保安本部
・本間亮次様
- 手話：サークルたんぽぽ
・宮本きくよ様
・阿部しず子様
- ガイド：NPO みなとしおがま
・高橋幸三郎様
・佐藤健太郎様
・佐藤静夫様
・武田喜徳様
・藤橋経雄様
- 切り絵：祓ヶ崎神社
・榊原久康様
- 神社：鹽竈神社
・高橋苑丁様
・高橋 賢様
- 福祉施設
・「萩の里」
・「清楽苑」
・「グリーンヒルズ」
・「やまと塩竈」
・「しおり」
・「やすらぎの里」

伝統を引き継いで…新生徒会役員

10月10日(木)、生徒会立会演説会と選挙が行われ、新生徒会役員が決まりました。塩一中の新たな顔となり、生徒による自治的活動の中心を担います。これまでの伝統を引き継ぎ、より良い学校づくりに励んでほしいと思います。なお、この後11月12日(火)に行われる生徒会引継式において、書記と会計、総務と一緒に任命し、正式にバトンが渡されることとなります。

○会 長：立川裕二(2年)

○副会長：大友奏穂(2年)、太田峻平(1年)



お知らせ1

11月1日は「みやぎ教育の日」です。明日のみやぎを担う子どもたちを育てるためには、家庭と地域、学校が連携して、教育の充実を図ることが大切です。塩竈市では11/9に教育フェスティバルを開催します。

お知らせ2

11月は「児童虐待防止推進月間」です。2004年9月に起きた事件をきっかけに、オレンジリボン運動として子どもたちが幸福になれるよう取り組んでいます。

平成25年度標語

「さしのべた その手が子どもの 命綱」

おめでとう

- 塩竈市中学校弁論大会 (9/25)
 - ・最優秀賞 千葉のどか「つながる」
 - ・優秀賞 鈴木みな「私とは」
- 塩竈市読書感想文コンクール (10/15)
 - ・最優秀賞 西畑里菜、太田岳志、鈴木みな
伊豆和架奈
 - ・優秀賞 木村純也、大友奏穂、坂下琳花
尾形綾乃
- 宮城県中学校新人陸上大会 (10/19)
 - ・女子1年100m 3位 坂下琳花 13” 60
 - ・女子1500m 6位 奥山瑞希 5’ 02” 16
 - ・女子200m 6位 釣舟さくら 28” 17
 - ・女子400mR 6位 佐々木(楓)・釣舟・坂下・鈴木(海)
 - ・女子総合 7位
- 仙台地区中学校弁論大会 (10/21)
 - ・最優秀賞 千葉のどか「つながる」

※11/6に開催される県大会に出場します。

11月の行事予定

日	曜日	行事
1	金	避難訓練
4	月	バド県大会 (於：宮城野体)
5	火	3年：定期考査 (～6日)
6	水	各種委員会
7	木	3年：進路説明会
9	土	塩竈市教育フェスティバル (於：ガス体)
〃	〃	サッカー県大会 (於：アティダスパーク) ～10日
〃	〃	柔道県大会 (於：県武道場)
12	火	生徒会引継式
13	水	3年：指揮者による特設音楽授業
14	木	1年：13歳の架け橋事業
16	土	剣道県大会 (於：田尻体) ～17日
18	月	職員会議 (部活なし～22日)
21	木	1・2年：定期考査 (～22日)
25	月	教育相談 (～12/2日)
30	土	がんばっぺフェスティバル塩竈：吹奏楽部演奏

つながる

三年 千葉のどか

てのひらにのっけている桃。重みを感じた。思わずそのやわらかなピンク色の桃を両手でそっと包み込んだ。

二〇一二年三月一日。東日本大震災が発生。その数日後、福島第一原発の爆発。人々を見えない恐怖が襲いました。あの日以来、テレビや新聞を通して、数々の情報が飛び交ってきました。何度も耳にした。すぐには人体に影響を及ぼさない」という言葉も、すぐには」ということは、将来は分からないの？」と怖くなり、マクレルやマイクロシールドの意味も理解できないまま、錯綜する情報に不安ばかりが増していきま

した。今年の八月。私は、福島県で開催される全国生徒会サミットに参加することにしました。不安はあったけれど、全国の中学生と意見を交換したいと思ったからです。そして、活動プログラムの一環で、ある桃農家さんと出会いました。

ここでは、原発事故の影響を受けて出荷を制限され、大切に育ててきた桃を売ることができない悔しさを知りました。果樹園の木々を一本一本除染し、土の表面を数回削るなど、できることをやろうと現実を受け止める決意や、綿密な自主検査を行い消費者の安心、安全を守ろうとする努力を知りました。そして、今は安全な桃が出荷されているのです。

そんな現状を何も知らないのに、怖がったり不安がったりする無責任な感情が、農業や観光で復興に向けて努力している人達の気持ちをどれほど傷つけていたか気がつきました。私も、その一人でした。これが「風評被害」。申し訳ない気持ちでいっぱいになり、胸が痛みました。

宿舎に戻り、9つのカテゴリーに分かれて熟議の時間。私は迷わず「風評」を選びました。全国の中学生達と何ができるか考えたかったのです。

話し合いでは、正しい情報が分からなかった」という意見が多く出されました。「風評」とは、根拠のない情報から広がっていくものです。

今までは、正しい情報を知ろうと自ら動いただろうか。情報が曖昧だと文句を言っている自分。ちよほど耳にした情報に不安がる自分。常に受け身で、正しい情報を知るための努力をしていませんでした。ましてそこに生きる人達の思いなど知らずともしていませんでした。

今回の体験で、実際に行ってみて会ってみると、この情報が、どんな手段よりも正しい情報が入りできると実感しました。これから私たちができることは、正しい情報を発信していくことです。全国の中学生がそれぞれの地域で行ったら「風評被害」をなくす小さな力になれるのではないかと考えました。

私たちは、情報化社会に生きています。四角い液晶画面からあふれる情報は便利です。しかし、最も基本的な手段である「直接人とつながること」の大切さを忘れてはいけないと思いましたが、そこにはインターネットの検索の答えだけでは伝わらない、人の心の痛みや悲しみや暖かさ、そんな感情があるからです。相手の心を知ること。それも無責任な「風評」という情報の悲劇を引き起こさない一つの方法だと思っております。

今、こうして皆さんの前で話しているのは、私にとって挑戦です。全国の仲間との約束です。あの日、手のひらにのせた桃。その桃に込められた想いを、決して忘れません…。

